

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0174100990), 法人名 ((株)ピッチ&パッチ), 事業所名 (グループホームよいしょ!春採-2), 所在地 (釧路市春採1丁目14番6号), 自己評価作成日 (平成29年11月6日), 評価結果市町村受理日 (平成29年12月28日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kiho_n=true&JigyosyoCd=0174100990-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成29年11月21日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

眼下に春採湖を望み、四季折々の自然を楽しむことのできる景観豊かな環境に立地しています。利用者様お一人お一人が安らぎを持って生活でき、もう一つの我が家として、安全に安心して生活できますよう支援しています。笑顔や喜びのある生活が提供できますよう、それぞれの趣味や身体機能に合わせ、園芸や散歩、脳活性化のアクティビティにも努めています。季節感を感じて頂いたり、外気浴や気分転換のためドライブ・ショッピング・外食などの外出支援を積極的に行っています。又、敷地内ではヤギを飼育し、餌やり以外へ出たり、窓から眺め刺激や癒しになっています。地域との交流も深く、季節の行事を企画し皆さんに来て頂いたり、地域の行事に参加させて頂くなど地域に根差したホームです。ご利用者様の居室やフロアはアロマオイルを使い、香りによって心身を健康に過ごして頂けますよう、癒しの空間づくりをしています。家庭的な雰囲気を感じて頂くために、スタッフの衣服はユニフォームを着用せず、私服にしています。又、外出時に乗車して頂く車も社名を入れていません。常にホームの生活は、家庭生活の延長線上にある事を意識して支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty table box for external evaluation comments.

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes like staff understanding, user satisfaction, and safety.

自己評価及び外部評価結果 -2

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「今日も一日楽しく有意義に過ごす」の理念の下、利用者様には笑顔で接し、明るい雰囲気の中で安心、安全に過ごしていただくようにしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の「にとぶきサロン」は、外出可能な方は積極的に参加させていただき、楽しみました。町内会からは、ホームの夏祭り、避難訓練にはボランティアで参加して下さり、意見も伺っています。また、地域の保育園からも夏祭りに招待され、子供たちとも交流しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に、行事のボランティアをお願いしたり、避難訓練に参加して頂き、こちらからも地域の行事に参加する中で、利用者様と接する時間を多く持つことで認知症の理解を深めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の日常の様子や行事等の取り組みの報告をし、地域の方や家族の率直な意見を参考にさせて頂いています。又、事故があった時は会議の中で報告し、ご家族、地域の方からも意見を伺っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行事や運営推進会議に参加して頂き、普段取り組んでいることを報告しています。また、包括支援センターの取り組み、行事等の案内もして頂いています。包括の方に講師になってもらい「高齢者虐待」の研修をしました。包括支援センターから入居の要請があり受け入れもしました。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、夜間を除いては開放しています。利用者様が外に出たい素振りの時は、一緒に出るようにし、納得して戻れる体制を作っています。また、ベッド柵についても位置など確認を行い、身体拘束のないケアを行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は利用者様の体に異変があった場合は、生活記録に記載し、管理者、看護師、職員全体が情報を共有し、原因を明確にしています。また、研修で「高齢者虐待」の研修を行い、事例を元に虐待について話し合う機会を設けました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業・成年後見制度について過去にホーム内で勉強会をしました。現在、成年後見制度を活用している利用者様はありませんが、今後に向けて勉強していきたいと思えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には、管理者が利用者様とご家族に十分な説明を行い疑問にも丁寧に答え、不安のないよう努めています。また、退去時においても安心して退去できるよう支援しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際は、ご家族に必ずホームに関しての御意見等を伺い反映しています。御家族が来設された時には、時間を作り利用者様の様子を伝え、御家族からは、意見や要望を伺っています。利用者様からは、会話や表情の中から思いを受け止めています。また、新しいケアプランに対しての意見も伺っています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の全体会議で、職員の意見、要望を聞き反映するよう努めています。また、勤務の中でも意見要望を聞いています。新入職員、移動のあった職員には意見を聞く時間を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の事情を把握し、働きやすい時間の勤務を可能にしています。休憩室にはマッサージ機が置いてありくつろげる環境が整っています。職員は全員正社員で雇用し、資格手当・昇給やボーナスの支給が有り、有休の取得にも努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修や資格取得に積極的です。資格取得に向け勤務環境を整えたり、費用面でも援助が有ります。近隣での研修には、出来るだけ参加するようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修等で同業者と交流する機会があり、その内容の報告を受け意識向上に繋がりました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の面談で、ご本人・御家族より生活歴、現在の生活の様子を聞き取りしています。入居前にスタッフミーティングを行い、生活状況等の確認をし、その人らしく生活できるよう支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族と面談の時間をもち、不安な事、求めている事、困っている事をお聞きし、その言葉を真摯に受け止め、御家族との信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、看護師、ケアマネが対応し、ホームの中でどんな支援が必要なのかを考え、ケアプランを作成し、職員全体で共有し、支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したり、畳んだり、調理の手伝い、盛り付けなど本人のできる事や、したい事を職員と一緒に会話を楽しみながら行い、良い関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問を大切にし、利用料の支払いは出来るだけお持ち頂き、その際に利用者様の様子を伝えていきます。病院受診の際も経過を報告し、一緒に支える関係を築いています。月初めには、写真、担当職員から自筆のお手紙を送付し、ご本人の様子を詳しくお知らせしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の思い出の場所にドライブに出かけるなど、利用者様の思いを大切にしています。友人・御家族の来設時には、ゆっくり居室等で会話をしていただくなど、外部の方の訪問しやすい環境作りにも心掛け、馴染みの関係が長く保てるよう支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り調理や片付け等のお手伝いを一緒にして頂いたり、買い物・ドライブ等の外出を通じて、自然に支え合う関わりができるよう努めています。また歌やレクリエーションを通して楽しみを共有できるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても入院や転所された方の訪問をするなど、本人や家族の心のケアを大切にし、相談があった時は支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々利用者様の会話や表情を観察し、コミュニケーションを図り、希望や意向の把握に努めています。スタッフはその内容を共有しケアにいかしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートにて生活歴や生活環境についての把握をしています。又、御家族や利用者様の会話からも情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の生活(生活リズム・表情・体調等)を観察し、スタッフ間で共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月会議を行い、スタッフ・ケアマネ・ナースで利用者様のモニタリングを行い、その人らしく生活できるよう介護計画を作成しています。又、御家族に意見要望を伺い介護計画に反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの状況を記録し、スタッフ間で情報を共有しています。記録や情報を元に介護の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が同行できない通院介助はスタッフが同行し、御家族のニーズに対応しています。利用者様の会話から、したいこと、行きたい所を見つけ、外食や銭湯・美容室などのニーズにも対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事(盆踊り・ことぶきサロン)に参加しています。又ホームの行事である夏まつり・避難訓練など、町内会の方々に呼びかけをして協力していただき、地域との連携ができています。年6回行われる運営推進会議には町内会の方、地域民生委員、包括の方よりアドバイスをいただきより良い支援が出来るよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医、又は本人御家族の希望したかかりつけ医に診て頂いています。常に御家族と連携を取りながら、適切な医療を受けられるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の日常の体調や様子を看護師に伝え指示、助言を受けながら介護しています。怪我、発熱の時など看護師の指示の下、病院に受診しています。夜間帯の緊急の場合も電話連絡し、指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が交代でお見舞いに行き、少しでも安心して頂けるよう心がけています。又、病院の看護師等からは、入院時・退院時・退院後の生活についての情報を収集しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	疾病の重度化に伴い、御家族・利用者様・スタッフとの話し合いを持ち、その人らしい終末期を迎えられるよう、その人の気持ちに沿った方針を共有し、支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ会議等で事故発生時の対応を話し合っています。救急時の対応、AEDの使用・心臓マッサージ・人口呼吸の実技講習を定期的に行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回避難訓練を実施する中で、緊急時の職員連絡網の確認、避難方法の確認をしています。地域の方にも参加をお願いし、緊急連絡網に町内会の方にも入っていただき、協力体制をとっています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いなど、人生の先輩としての尊敬の気持ちを持ち、対応させて頂いています。利用者様の言葉を否定することなく受け止め、コミュニケーションを図っています。同姓介助を望む方には、出来る限り配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、何かしたいことがないかを伺い、できるだけ希望に沿えるよう支援しています。食事のメニュー・アクティビティ・外出など御本人の意思や体調に合わせて支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、消灯時間を決めず、その方の体調やペースに合わせて生活して頂いています。外出、散歩、入浴などもできるだけ、利用者様の希望に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒に身支度をしたり、自分で身支度できる方は見守りをしています。毎日化粧をしたり、行きつけの美容院に毎月お連れする方もいます。外出・行事の時は皆さんにお化粧、髪型を整え、おしゃれを楽しんで頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様からリクエストを聞いたり、一緒に買い物に行き食材を選んで頂いたり、旬の食材(山菜、魚、果物)を使用し、調理、食事、片付けをしています。いつも違う雰囲気を楽しんでいただくために、外食にも出かけています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢、持病、嚥下状況、体重を考慮し、食事量、形状(キザミ食、お粥)を個々の利用者様に合わせ提供しています。水分摂取量の少ない方には小まめに勧めたり、むせのある方にはトロミを付け提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は毎回声掛けをし、口腔ケアの支援をしています。就寝時は、入れ歯洗浄剤を使用し、常に口腔内の清潔に配慮しています。自力で行えない方はスタッフが付き添い、ケアをしています。週に1度口腔セット(カップ・歯ブラシ・義歯ケース)の洗浄を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、時間を見て誘導をしたり、日常生活を観察しトイレサインを感じとり、できるだけトイレで排泄できるよう誘導をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に、水、牛乳、野菜ジュースなど好みの物を飲んで頂いています。食事は、食物繊維の多い食材に気を配り、昼食時には自家製ヨーグルトを提供し、自然排便に繋がるよう支援しています。又、体を動かす機会を持つために、テレビ体操を毎日を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の体調に合わせて、くつろいだ雰囲気の中で入浴できるよう心掛け、週2回程度入浴しています。入浴拒否のある方は無理強いせず翌日に入ってもらようようにしています。入浴できない時には、シャワー浴で対応し、気持ち良く生活できるよう支援しています。時には気分を変えて、温泉へも出かけています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けず、個々のペースに合わせてゆっくり安心して眠れるよう見守りを重視しています。日中の生活の様子を職員間で共有し、夜間ゆっくり入眠できるよう、日中はアクティビティやレクリエーションを工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬ファイルを作り、用法、用量を把握し、変更の合った時は記録を確認し情報の共有に努めています。毎日、服薬確認表で氏名、日付け、朝昼夜、を確認し飲み終えるまで見守りしています。症状に変化があった時には、看護師に伝えています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、盛り付け、食器拭き、掃除、洗濯など利用者様に合わせたお手伝いをお願いし、感謝の気持ちを伝え満足感が持てるよう支援しています。カルタ・百人一首・風船バレーなどのアクティビティも行い、頭や体を使い気分転換しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良く暖かい日は外出を心掛け、ドライブに出かけて外気浴をしています。普段から利用者様の行きたい場所をお聞きし、温泉・銭湯・外食など予定を調整し、できるだけ行けるよう支援しています。イベントなどでホテルでの会食も行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様と相談し、ホームでお預かりし、日用品や医療費、外出時の費用に充てています。希望に応じ買い物に出かけ、お金が使えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や大切な方からの電話・手紙はその都度取り次ぎをし、安心して生活できるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日2回温度・湿度を測り、エアコン・加湿器を使い調整しています。フロアは、季節感のある壁装飾や写真を掲載しています。また、睡眠前は過度な刺激を与えないよう配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは、ソファの配置を工夫し好きな場所に座れるよう配慮しています。利用者様同士での交流を主体とし、必要な時は間に入り楽しく過ごせるよう支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人の馴染みの物、本人が使い慣れた物を配置し、御家族様の写真を貼るなど落ち着いて過ごせるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、玄関、廊下、トイレ、浴室には手すりが設置され、特にトイレの場所は、分かりやすいように大きく表示しています。利用者様の居室は、自室と認識しやすいよう表札の工夫をしています。日付や食事の時間も分かりやすく表示し、皆さんに確認して頂いています。		